

令和 4 年度 県立守谷高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 知 (確かな学力)、徳 (豊かな心)、体 (健やかな体) のバランスのとれた「生きる力」を育み、心身共に健康で、地域や社会に貢献しようとする人間を育成できる学校 (2) キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた進路実現ができる学校 (3) 保護者や地域社会との連携を深め、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
授業改善 電子黒板などの ICT 環境が整備されたことにより、授業での電子機器の利活用は進んだが、生徒個人のタブレットについては、上手く授業で活用できなかった。 このため、令和 4 年度より学習指導部を立ち上げ、ICT 機器を活用した授業の研修の機会を増やし、教師一人一人のスキルアップを目指す。 特別活動の活性化 昨年度も文化祭や克己踏破会など多くの学校行事が新型コロナの影響で中止や内容縮小などを余儀なくされ、十分な活動ができなかった。 部活動も活動が制限される中で、剣道部や弓道部が上位大会で活躍し、部活動の加入率が増加するなど、明るい材料もあった。 働き方改革 6 月の平均超過勤務時間は 55 時間(R1)→38 時間(R2)→25.4 時間(R3) と、ここ数年度大幅に改善されている。しかし、数字上は減っているが、仕事が減ったという実感がないので、さらに業務の見直しが必要である。	授業改善を主とした学力の向上	① 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT 機器を活用した授業の研修会を設け、研究・実践を通して授業改革に努め、授業アンケートでの満足度 80%以上を目指す。 ② すべての教員が年 1 回以上授業を公開する授業研究会を通して、教師一人一人の授業力向上を図る。 ③ 新課程での観点別評価について研究を重ね、評価を学習改善へつなげられるように、授業展開を工夫する。	
	生徒の希望や資質・適性に応じた進路実現	④ キャリアガイダンスを計画的、組織的、系統的に実施し、生徒の進路に対する意識の高揚を図る。 ⑤ 面談を通して生徒の希望及び資質・適性を的確に把握し、それらを踏まえた適切な進路指導により生徒の進路希望を支援する。	
	基本的生活習慣の確立	⑥ きめ細かな生活指導を通して、規範意識の高揚と公共の場におけるマナーの向上を図る。 ⑦ 規則正しい生活の習慣化を図り、遅刻・欠席者を減らして転退学者の減少を目指す。 ⑧ 薬物乱用防止や SNS 上でのトラブル、交通法規遵守に対する意識を高め、健康で安全な生活を送ろうとする意欲を高める。	
	特別活動・部活動の活性化	⑨ ホームルーム活動、学校行事や生徒会活動、部活動において、生徒の主体性を大切にした活動を支援する。生徒会アンケートを通して、学校満足度を調査し、満足度 70%以上を目指す。 ⑩ キャリアパスポートを活用することで、生徒自身が自らの学びを見通しをたて、事後に振り返ることで主体的に学びに向かう力を育む。	
	校外への広報と連携の充実	⑪ HP や PTA 会報などによる情報発信を適切に行い、本校の魅力を伝える。 ⑫ 保護者との連携をさらに深めるとともに、地域の活動に積極的に参加したり、近隣小中学校との交流を進めたりすることによって、地域社会との連携の充実を図る。	
	創立 40 周年記念事業の成功	⑬ 令和 4 年は本校の創立 40 周年の節目にあたるので、周年事業を盛り上げ、次の 10 年を見据えた本校の目指す方向を模索する。	
	働き方改革	⑭ 質の高い授業や個に応じた学習指導を実現するために、学校や地域の実情を踏まえ、教師が担うべき業務を整理し、適正化を図る。 ⑮ 朝会の簡素化や会議資料のペーパーレス化など、仕事の削減・効率化に努める。	

別紙様式2 (高)

三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	自らを律するとともに、生涯にわたって学ぶ意欲を持ち、多様な他者と協働して、地域や社会に貢献しようとする人材		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた、きめ細かなキャリア教育や多彩な特別活動を通して、大学進学から就職までの進路希望実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	将来を見据えて、主体的に行動し、自身の可能性を切り拓こうと学習や特別活動に積極的に取り組む生徒		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る。	漢字力、語彙力を高める。		
	主体的・対話的で深い学びの実現に努める。	様々な文章を読み、適切な言語活動の機会を設けることで、思考力・表現力の向上に努める。 多彩な教材を用いて、現代社会の複雑多様な言語生活への適応を図り、読解力の向上に努める。		
		ICT機器等を用いて、様々な観点から情報を収集整理するスキルを身につける。		
	生徒の実情に応じた授業の確立に努める。	相互授業参観や各種研修等で得た知識・スキルを教科内で報告するとともに自己研鑽に努める。		
地歴・公民	基礎学力の向上を図る。	基礎的な用語や政治・社会制度などを理解させ卒業後に役立つ学力を培う。 教材を精選し、基礎的・基本的な内容の定着を図る指導の工夫をする。		
	主体的・対話的で深い学びを充実させる。	新聞・テレビなどのマスメディアや写真・ビデオなどの視聴覚教材を有効活用し身近なものとして主体的に捉えさせる。 白地図やプリント・整理ノートなどを活用し、生徒同士の対話を取り入れながら理解度を深める。		
	社会的事象への関心と探究心を引き出す授業を展開する。	問題意識を明確にするための社会的事象との出会いの場を設定し、課題を探究させる。 社会問題に対して関心を持ち、解決の方法および自分の意見を確立できるように、身近な事象を取り入れるよう努める。		
数学	基礎学力の向上を図る。	生徒の実態に応じて、各単元の導入時に既習の基礎事項を復習し、新単元へのスムーズな取り組みを促す。		
		学習内容の定着のため反復練習に適した練習問題を準備し、なるべく多くの問題を解く機会を与え、生徒が各自の疑問点に気付くよう促し、問題解決の手助けをする。 小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な場合は復習の時間を設ける。		
	家庭学習習慣の定着に努める。	ワークノートを定期的に点検し、家庭学習の習慣が身につくように努める。		
	数学がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。	積極的に授業を公開し、授業内容や方法について教科内で研究協議する。 各種研修会に積極的に参加し、教科内で報告するとともに自己研鑽に努める。		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
理科	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	各種研修会や相互授業参観を通して、授業の改善を図る。		
		I C T機器を活用する場面を適切に選択し、学習の質を高める。 授業や学習プリント等を工夫し、見通しをもって学習できるよう指導する。		
	科学的な思考力・表現力の育成を図る。	考察・表現することの苦手意識を改善するため、ワークシートに考察部分の方向性を示す等、言語活動の工夫に努める。		
保健体育	基礎体力の向上を図る。	自然の事物・現象について理解を深めるために、日常生活との関連を図る。 感染症対策を徹底しながら観察・実験が実施できるよう工夫改善を図る。 基礎的な観察・実験を実施し考察させる等、探究活動の充実に努める。		
		体力テストを実施し、運動能力を把握する。 水泳・縄跳び・マラソンを必修とし、基礎体力を向上させる。		
	健康的な生活を明るく前向きに展開する。	自分自身の成長・発達をしっかりと受け止め、さまざまな課題に対処していく力をつける。 生活習慣病などに適切な配慮ができ、心身ともに豊かに過ごしていける力をつける。		
芸術(音楽)	音楽の基礎的知識を身につける。	学習プリントを利用して、楽語や形式を学習作品と結び付けながら具体的に理解できるよう工夫する。		
	表現力の充実に努める。	実技試験や発表する機会を通して、表現することの楽しさや達成感を味わわせる。		
	鑑賞能力を高める。	音楽作品の聴き方と、感じたことを適切な言語で表現することができるよう工夫する。		
芸術(書道)	授業を充実させる。	さまざまな用具用材を使用した作品作りを通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育む。		
	表現力指導の充実に努める。	臨書と創作の指導に努め、自己を表現する力を身につけさせる。		
	鑑賞力指導の充実に努める。	作品を鑑賞させ、説明事項や感想を書かせることによって、鑑賞力を高めるとともに書についての知識を身につけさせる。		
英語	基礎学力の向上を図る。	授業や学習プリント、課題等を工夫し、積極的に学習に取り組ませる。 小テストやドリル練習を活用し、基礎学力の定着を図る。		
	主体的・対話的で深い学びの視点から4技能をバランスよく指導する。	インプットおよびアウトプットを連動させ4技能統合型の指導をする。 電子黒板・タブレット等のI C T機器を十分に活用し、実践的な英語力を育成する A L Tを活用することによって、英語でコミュニケーションを図る喜びを感じさせる。		
	各種検定試験や外部模試に対応した授業の充実を目指す。	進路を意識させ検定試験等に積極的に取り組ませる。 G T E Cの結果を共有・分析し3年間を見通した指導を展開する。		
	教員の指導力の向上を図る。	相互授業参観を通し、授業改善に努める。 研修等への参加を促す。		
情報	情報社会を支える情報技術の役割や仕組みを理解し情報社会の課題について考える。	基本的な情報リテラシーを身につける。		
		情報安全(法律や個人の責任など)を学ぶ。		
		ネットワークを適切に活用して、問題解決に必要とされる事柄(問題の明確化、情報の収集、整理・分析、解決策の検討など)を体験的に学ぶ。		

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
家庭	家庭の基礎的・基本的な知識を身につけさせる。	学習ノートや独自に作成した学習プリントを使用し、実生活を振り返り、学んだことと結びつけながら具体的に理解できるよう指導する。		
	家庭生活を向上させるために必要な基礎的・基本的な技術を身につけさせる。	実習時間を確保し、生活に必要な基礎的・基本的な技術の定着を図る。		
	生活について見直し、適切に判断し工夫創造する能力を身につけさせる。	5月の連休中に家庭クラブ週間を設け、家庭生活の見直しを図る。授業で学習したことを生かし、夏季休業中にホームプロジェクトを実施する。冬季休業中にも、5月と類似の課題を与え、家庭生活の見直しを、家族とコミュニケーションをとりながら実施する。		
	授業に意欲的に取り組むとともに実践的態度を身につけさせる。	定期的に課題を点検し、提出物の充実を図る。		
教務部	円滑な学校運営に努める。	各公務分掌・学年・教科との連携を密にし、円滑な学校行事の運営に努める。 新しい学習評価について、各教科と連携し、適切な評価ができるように研修を重ねる。		
	学校の広報として、守谷高校の魅力を発信する。	特別活動部と協力し、生徒主体の活動を通して、学校の魅力発信に努める。 情報管理部と連携し、ホームページや学校パンフレットを充実させ、中学生や保護者・地域社会に積極的にPRする。		
	基礎学力の定着を図る。	学習指導部と連携し、校内での公開授業を実施し、主体的・対話的で深い学びの実現と基礎学力の定着を促す。		
生徒指導部	遅刻、服装頭髪指導を徹底する。	週番体制を組んで毎月遅刻指導を実施する。 始業式及び定期考査最終日に全校一斉の服装頭髪指導を行う。 マナーアップ講演(習)会を実施する。		
	交通マナー、安全意識の高揚を図る。	学年ごとに交通講話を実施する。 交通安全運動に積極的に参加するとともに、自転車通学者への指導を徹底する。		
	心の教育をする。	他人の考えや、気持ちを理解できるようにし、いじめのない学校作りを日ごろから授業やLHRを通して指導する。		
	環境を整備する。	校舎内外の点検を進め、事故防止に努める。		
進路指導部	進路希望の実現を図る。	進路と学年の連携を密にして情報の流れを円滑にし、生徒の現状を正確に把握するとともに、一人一人の興味関心や特性に応じた指導に心がける。 計画的な進路行事を通して、進路に対する意識を高める。特に総合型選抜及び学校推薦型選抜の入試において安易な決定に流れないように丁寧な対応を心がける。また、「大学入学共通テスト」を見据えた指導の充実を図る。		
	進路意識、職業観を高める。	進路ガイダンス、進路LHRの充実と共に、総合的な学習(探求)の時間を利用し、主体的に進路学習に取り組みさせる。 上級学校・職場見学会を実施し進路に対して具体的イメージを形成する。 進路講演会、適性検査、面接指導を実施し、意識の向上を図り、生徒の進路実現を支援する。		
	基礎学力の向上を図る。	平常課外、夏季課外への生徒の積極的参加を促す。		
		各種模擬試験、小論文模試を生徒の実情に合わせて的確に実施し、学力の向上に役立てる。		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
学習指導部	生活習慣の確立を図る	手帳「もりすけ」を活用し、自分の生活をマネジメントできる力を育成する。		
		手帳「もりすけ」に学校生活の記録を残すことで日頃から自分の生活を振り返り、学校生活をよりよい方向に導けるようにする。		
	基礎学力の定着およびICTの活用を促進する	基礎学力を定着させるために月例テストを全学年で実施する。		
		情報管理部と連携し、生徒の学ぶ意欲を高め、より効果的な授業をするために ICT 機器や学習アプリを積極的に取り入れ、生徒が主体的・対話的で深い学びができるようにする。		
	教員力向上の取組を充実させる	IC 機器を取り入れた授業を実施するにあたり校内研修等を企画・実施し、授業の改善に努める。		
		教務部と連携し、授業の相互参観を通して、教員一人一人の授業力向上を図る。		
資格検定の取得を奨励する	英検・GTEC・漢検・数検・Literas 検定・ニュース検定などの資格を取得するために各学年や各教科と連携し、指導にあたる。			
	資格検定の必要性や重要性についての情報をこまめに発信し、生徒の意識づけに努める。			
情報管理部	学校ホームページの整備・更新	本校の教育・指導方針を明確にし、生徒の活動状況情報を具体的に示すことによって広報の一端を担う。また、年間の行事予定等の情報を示し、保護者との連携・協力体制を作る一助とする。		
	成績処理システム管理	統合型学校支援システムの管理、運営を行う。成績会議資料等の作成を行う。		
	学年に対しての ICT 関連のサービス	重複したファイル作成に費やす時間を短縮できるようファイル作成の情報を公開する。(名簿等データのフォーマットの統一等)、GIGA スクール構想への対応 (MAC アドレスの登録・変更への対応等)		
	緊急情報メール配信システムの活用	登録率の向上を図る。(年度初めの整備)		
保健厚生部	心身の健康に関する知識や能力を育て、健康な体をつくる。	健康状態の把握に努め、消毒、換気、マスク着用を促すなど適切な指導や援助を行い、疾病等の予防と管理を徹底する。		
	心身の健康の保持増進に努める。	教育相談活動の充実を図り、スクールカウンセラー等を活用して生徒の精神面の健康の保持に努める。		
	健康で安全な学校環境の整備に努める。	施設設備の安全点検・管理の徹底を図り、事故や災害が発生した場合には適切な応急処置や安全処置ができるよう学校安全の推進を図る。		
		防災についての意識を高め、状況に応じた安全確保ができる態度を身につけさせる。		
特別活動部	ホームルーム活動や学校行事を通して、帰属意識や協調性、責任感を養う。	HR 活動や委員会活動、活動学校行事をとおして、責任ある行動が取れるよう指導していく。		
		感染症対策を徹底し、新しい生活様式に合った学校行事の運営ができるよう創意工夫をした上で、生徒が主体となった企画・運営を実施させる。		
	部活動への積極的な参加とその継続を図る。	部活動の加入率を上げ、生徒の自主的・自発的な活動と実績の向上が促進されるよう、顧問への適切な指導・援助を行う。		
		部活動を通して心身の鍛練と健康増進を図る、豊かな心を育成する。		
広報活動の一端を担う。	学校行事や部活動の活動状況が校外へ広く伝わるよう、データの収集・蓄積・管理を行う。			

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
図書部	利用しやすい図書館を目指す。	利用者が閲覧しやすい環境を整備し、授業での利用を促していく。 新しい生活様式での図書館利用の留意点を周知する。		
	本の貸し出し冊数を増やす。	新着本の紹介を図書便りとして発行して、貸し出し率アップを目指す。		
	選書の充実を図る。	幅広い分野からの選書に努める。 生徒の読書傾向なども加味した選書を心がける。		
	図書館主催の行事を行う。	生徒参加の季節行事等、図書館からの積極的な発信に努め、図書委員会活動を活性化する。		
渉外部	P T A 活動全般の活性化と充実を図る。	学校諸行事およびP T A 活動に対し、役員だけでなく、広く会員が参加できるよう企画し、会員相互の親睦を深める。 本部役員と各専門委員との連携を図り、学校行事が円滑に進むように努める。 会員への連絡の周知度を高めるとともに、学校からの通知が会員に届くように進める。		
	同窓会活動の充実を図る。	同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化を図り、同窓生の連帯を深める。		
	創立40周年記念事業・式典に努め、実施する。	P T A や同窓会と連携し、周年行事に努め、実施する。		
1 学年	基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成を図る。	学年集会に加え、日常での生活指導を通して服装、挨拶、言葉遣い、時間の遵守、規則・期限の遵守等の指導を徹底し、規範意識を高める。 もりすけや ICT を活用させ、必要な情報の収集やスケジュール管理を自分で行い、自己管理能力のある生徒を育成する。		
	前向きに学習する姿勢、挑戦する気持ちを育て、基礎学力の定着を図る。	中学校の復習を含めた基礎学力の向上を図り、高校での授業理解につなげる。また、月例テストや自学ノート、課外などで、前向きに学習して進路実現に向けて努力する姿勢を育てる。 Literas3 級の全員受験や様々な資格取得への挑戦を促し、合格を目指して学ぶ達成感を得て自信や自己肯定感を持たせる。		
	進路意識を高め進路の方向性の明確化を図る。	2 年生でのコース選択に向け、進路に関する適切な情報を与えるとともに、生徒個々の希望・適性に応じた指導を行う。 道徳やHR 活動を通して、長期的な展望に立った進路の意識づけを行うとともに、社会の一員としての自覚を持たせ、自己のあるべき姿を考えさせる。		
2 学年	規範意識を高め、基本的な生活習慣を確立する。	ルールを守り、自らの役割を全うできるよう指導するとともに、問題行動に対しては家庭との連絡を密に対応する。 欠席・遅刻・早退について家庭と連携し、問題がある生徒に対しては、はやめに個別面談を行う。 服装・身だしなみの指導を徹底し、落ち着いた学校生活を送るように指導をしていく。		
	個に応じた学力の向上を図る。	総合クラスは、学習環境の整備とともに授業態度の指導に力を入れる。月例テストを活用し、成績下位層の生徒たちの学力を引き上げることを目指す。 進学クラスは課外授業の活用や、授業での意識づけによって、一般入試にもチャレンジできるような学力をつけることを目指す。		
		資格試験へのチャレンジを促し、資格取得を達成させることで、自信を付けさせ、何事も前向きに挑戦する姿勢を養う。		

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
2 学年	進路学習の充実を図る。	後期は進路選択をメインにし、この時期を実質的な入試・入社試験のスタート段階と捉え、生活指導を軸に、進学・就業意識の向上を目指す。		
3 学年	進路希望の実現を図る。	個々の生徒の進路希望に加え、その個性や適性を的確に把握した上で、本人・保護者・担任の三者が十分に協議し、情報を共有する。それに基づき個々の進路実現のための具体的な指導をする。		
		HR活動、学年集会、ガイダンスなどを通して、進路に関する最新の情報を適宜提供することで、生徒の進路活動をサポートする。		
		進路別課外の実施および面接練習指導の充実を図る。		
		進路実現の一助となる資格・検定を取得させるための環境を設け、積極的な受験を促していく。		
	基礎学力の定着を土台にさらなる学力の向上を図る。	大学進学希望者には一般入試にもチャレンジできるような学力をつけさせ、さらに進学後の学びに十分対応できる「真の学力」を身につけさせる。		
		授業を第一に取り組ませる。加えて家庭学習の習慣を定着させる。		
		外部模試を受験させ、その結果を個々の生徒の進路指導に生かしていく。特にGTZゾーン下位層の生徒たちの学力を引き上げ、学年全体の学力を上げていく。		
		資格・検定にチャレンジできる学力を育成する指導を提供する。		
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	服装・身だしなみ、あいさつ、言葉遣い、マナーなどの指導を徹底し、社会人として身につけるべきことを教えていく。		
		欠席・遅刻・早退について家庭と連携し、継続的な指導を行っていく。規則正しい生活をすることで心身ともに健康な体を作られることを教えていく。		
		社会に出るにあたってルールを守ることができるよう指導する。		

※ 評価規準： 5：非常によくできた、4：よくできた、3：普通、2：あまりよくできなかった、1：できなかった